



# ツイッターから 企業の思いやり

心  
あ  
っ  
た  
か

NMCAA  
NO3

6月9日ツイッターにこのようなメッセージが投稿されました。「私は視覚過敏があるため、白いノートをあまり使いたくありません。ノートの白が光を反射し、線が見にくくなるからです。顔を近づけて影を作らないと文字が書きづらく、また、良いノートであればあるほど紙質がよく綺麗な白で、目が痛かったのを覚えています。中学生のときに母が紙が緑のカラーノートを買ってきてくれ、目が痛くならないし、文字は見えずし、一気にまとめ買いしたほどです。しかし、高校生になってからそのノートを売っていたお店は潰れてしまいました。もしもこのツイートをノートを取り扱っている会社の人が見てくれたなら、ぜひグリーンノートを作って販売してほしいです。」この投稿に対して「あそこのお店で売ってた」という情報や、「うちで取り扱ってます」という文具店からの反応が寄せられ、リツイートは4万9千。ノートを作っているナカバヤシは「正式な発売は未定ではありませんが、企画チームが製品サンプルの作成に動き始めています」とリプ

ライ。ロフトや東急ハンズはネットストアでの取り扱いを始めること発表しました。今年からツイッターを始めた中村印刷所も「少しでもお力になれるのなら水平開きで一日も早くお作りします。濃いグリーンか淡いグリーンどちらがよるしいですか？ 料金は頂戴致しませんのでご安心下さい」と社長がつぶやいた。つぶやきから5日後には、投稿主のもとに手作りのノートが届きました。（ヤフーニュース WITH NEWSより）

## デジタル共感から行動

奈良市にあるとんかつ店「まるかつ」が行っている取り組みは、事情があっただけでお金を出せない人に、とんかつをただで食べてもらおうという無料食堂。店の外壁の貼り紙には、「世の中お互い様ですの、お代は出せなくてもいいです。少しでも元氣を出すきっかけになればうれしいです」と書かれている。この取り組みが、SNSで瞬く間に拡散した。無料食堂の取り組みに共感し、普通にお金を払うお客さんがわざわざ全国からどきどき訪れるようになった。

メディアを運営する小泉耕二氏は「私の知り合いが会社を立ち上げるときに「こんなものあるといいな」と呟いていたら、共感した人たちが善意でどんどん買ってくれた」というのを見たことがあると見えた。デジタルの世界でも本当に善意の気持ちで暖かい形で行われていくと思えますね。」と。（ヤフーニュース FNNプライムより）

### 編集後記

IT技術はどう活用していけるか？困った人がいたら、力になれる人がいたら力になり、共感したら、力になる人をまた支える人がいる。そう使えるものだと思います。今の方が情報の伝達が早く広くなったぶん、多くの人が支える、力をかせることが大きくなった。そういう時代にいるのだと思います。